



東京矢高会 ニュース

矢高卒業生

会東京支部

総会が開催

される。

5月25日東京
 ・五反田「ゆうぼう」と「6階」葛蒲の間
 で矢上高校卒業生
 会東京支部第39回
 総会が開催されま
 した。神田恵介支部
 長(13期)の「挨拶
 の後当日邑南町から
 遠路「出席頂いた
 足立芳樹校長
 三宅正隆卒業生会
 会長 関西支部の
 河井正之支部長
 (13期)から矢上高校
 の近況や「挨拶を
 頂きました。
 和やかな会でした。



古民家再生

東京支部長 神田恵介(13期)

私の育った家は、茅葺き屋根で、入れば土間、かまどがあり、風通しはいいが、冬は障子の隙間から雪が吹き込んで三角に積るという典型的な農家の古民家で、思い出もたくさんありました。しかし両親も亡くなり放ったらかしにしていたら床板も腐朽し、つぶすか、つぶさないか、いろいろ迷いました。田舎の矢高同期の連中は、「早く帰って来い、いつ帰ってくるか」と、会う度に言うし、東京からも八田さんや稲積さんも帰られたので、とにかく家だけは直そうと、古民家を昔のまままで再生することにしました。茅葺、かまどは叶いませんでしたが、囲炉裏だけは立派にして、この四月、古民家再生が完了したところです。今、田舎と東京と、半々の生活をしているところです。田舎ではのんびりと田舎生活をと思っていました、大間違い

で、家のほとりが草ぼうぼうで、毎日草刈の重労働ばかりしています。野菜を自分で作ればいいのですが、隣り、近所の方から取り立てのものを毎日のように頂くので、有難く思っています。夏は赤いゴーヤを頂き、中の種のところをしゃぶると美味しいのだと言われ、珍味を味わいました。やっぱり田舎はいいなあと感じたところです。先般は帰られた八田さんや、石橋町長と我が家の囲炉裏を囲んでアユ焼きをしました。囲炉裏で焼くアユの味は格別でした。「来年五月は五年毎の国勢調査の年だから」とそれとなく言われ、だんだんその気になり、軸足がそちらの方に向きそうなところでは、皆さんも一緒に田舎はどうですか。田舎に帰られた時は、うちの古民家にお立ち寄りください。古民家のホームページも作りました。ぜひ見てください。「古民家の品格」

<http://ohtv.ne.jp/~kanda-c-ominka/>

発行日 平成26年11月24日
 号数 第10号
 発行 矢上高校卒業生会東京支部
 発行人 神田恵介 編集人 三宅良二
 事務局 千葉市若葉区若松町902-12



東京支部総会初出席

関西支部長 河井正之（13期）

貴第39回支部総会では大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。欠席の会員の皆様には改めまして、昨年の関西支部総会で支部長を引き継ぎました河井と申します。7期21年間務められた貝路支部長

の後、誰も引き受け手が無く、東京支部長が同期の神田氏なので・・・と押し付けられました。どうぞよろしくお願い申し上げます。関西支部総会には毎年大羽前支部長や神田支部長にご出席賜り、大変申し訳なく思っていました。神田君とは3年間一緒に野球部で同じ釜の飯を食い苦楽を共にした仲間であり、彼が支部長の間は出席させて頂きます。（笑）東京支部は39回、関西支部は24回（11月22日開催）と歴史も違いますが、感想は出席25人と思ったより少なく感じましたが、なんと長老から若手迄話題が弾み、出席者皆さんの現況報告は東京弁かと思いきや、田舎弁含めての楽しい懇親会でした。又、出席の同期植田豊君とは卒業以来初めて会いました。関西支部でも参

考にしたいと思えます。

この度、貴支部より寄稿依頼を頂戴致しましたが特別な拘り、

趣味（ゴルフはストレスの溜まり場・貰ったメダカの飼育）、大した人生観はありません。ノー天気な毎日です。

私の現状は仕事14日（来年3月で退職）、家から5分のスポーツジム20日（仲間と定例の食事&カラオケ・風呂は毎日）、元会社仲間11人との毎月飲み会&カラオケ、近所に住む孫2人（7歳・4歳）のイク爺・・・と元気で多忙にて、楽しく汗をかいています。

先輩OB社員との合言葉、退職後は「教養（今日用がある）」と教育（今日行くところがある）」の実行を日々維持・実践しています。

加齢とともに体力は落ちて来ますが、気力は自分の気持ちです。落ち込まないで！

東京支部の皆さん元気で支部総会だけでなく、色々な会合にドシドシご出席して頂く事を期待しています。又、来年元気でおいしましよ。

「我が人生に悔いはなし・・・
家族へ感謝しきれません！」

小泉 美都枝（27期）

島根の片田舎、県立矢上高校を卒業し専門学校へ、そしてこちらで職につき

今年で40年を迎えます。矢上高校の同窓会、東京支部の活動は書面にて存じ上げておりましたが、拝読させて頂くだけでご協力する事もお会いする機会もなく現在まで過（こ）してまいりました。そんなある日、矢高会東京支部長神田 恵介様より突然の投稿依頼を頂きました。何も協力できない自分が投稿して良いのかと考えましたが、これもありかと思ひ直し、自分が歩いてきた人生を振り返らせていただく事と致しました。

私は旧姓「服部 美都枝」と申します、石見町矢上郡山の山奥にて父親は大工、母親は体の弱い父を助け日雇いの土木作業にて生計を立てるといって大変貧乏な家庭にて矢上高校を卒業まで過（こ）しました。教育には熱心な両親でしたので、弟妹3人それぞれに専門学校に上がり、私と妹は医療職に弟は車両関係の専門家として仕事をしております。

働き詰めの母親は私が30歳のとき、仕事帰りに倒れ突然死のように他界しました。残された父親も2年後に母親を追うように逝きました。両親にお礼を言えないままに去られ申し訳なさと後悔の念が続きました。ある時期を向かえ、これからは精一杯努力しやりたいた事をやろう！と強く心に誓いました。

矢上高校卒業と同時に東京の専門学校（入学、1977年に国家試験を受け）診

療放射線技師」として聖リアンナ医科
 大学へつと就職致しました。当時は女
 性の技師が二〇人に一名という少人数
 の状況で、「女は結婚して直ぐ止めるか
 らいらない！」と多くの病院に撥ねら
 れました。そんな中、アルバイト先の医
 師から、教授への推薦を頂きやつと「使
 つてみよう！」なんて言われて卒業間際
 に働き口が決まりました。これが、今の
 私を育てて下さった聖リアンナ医科大
 学との出会いです。

就職後早々に結婚、二〇〇〇年に長女を
 出産、二〇〇〇年には次女を出産しまし
 た。この間も主人と子供たちの協力を頂き、
 現場の仕事、学会への研究活動や出張
 などフルタイム以上に仕事に打ち込ま
 せていただきました。子育て中は、友人
 や妹、保育園の先生、学校の先生、諸先
 輩、職場の同僚、本当に多くの皆さん
 に助けていただき無事に子供二人は成
 長致しました。お陰さまで、子供達は
 大きくなっても心配してくれる沢山の
 仲間が今でもいます。本当にありがた
 いです。

子供も成長し仕事に目まぐるしく過
 ごしている40代後半、突然に続けて大
 病を頂きました。米国留学中だった長
 女にも一度帰国させ、卒業後は、日本
 にも帰つてよ！なんて弱気になった時期
 もありました。それでも仕事だけは続
 けると職場のスタッフの迷惑も考えず、
 仕事と病気の治療と、家族に支えられ

て闘いました。支えて下さった皆様に感
 謝しきれません。

一生涯の目標として続けた仕事も半
 ばを過ぎ、現在は皆様へお返しをする
 時間と考えております。日々の業務の
 中では後輩の指導をさせて頂き、院外
 では、乳癌検診受診率向上へと啓発活
 動の一環として、大学生との講演会、
 一般市民の皆様との講習会等、学内に
 て習得しました知識を皆様と共有させ
 て頂いております。

こちらへ上京し早40年、仕事に打ち
 込む自分を全面的にサポートし続けて
 くれる主人、楽しみを沢山作ってくれ
 た子供たち、本当にありがたく、感謝
 し尽くせません。

そして、こんな自分を育ててくれた亡
 き両親も心からの感謝をいたしたく
 思います。

最後になりましたが、このような投
 稿の機会を下さいました神田様へ心よ
 りお礼申し上げます。石見町（現在は
 変わつてますね！）は素晴らしい、自慢
 できる町です、私に応援できる事があ
 りましたらお声掛け頂ければと思いま
 す。

「お元氣ですか」

前校長 三宅美明（24期）

皆さん、お元氣ですか。私は、今
 年3月矢上高校で定年退職をい

たしました。最後の勤務校が、母
 校である矢上高校であったこと
 に、とても感謝しております。定
 年後は、「毎日サンデー」の日々
 で、イカ釣りとテニスを楽しんでい
 ます。波止からマイカ（剣先イカ）
 が釣れたときは本当に感激しまし
 た。最近では、イカではないのです
 が、カマスがたくさん釣れ、塩焼き
 にしたり一夜干しにしています。
 また、4月からテニスを始めたので
 すが、島根県出身の錦織圭選手
 の活躍もあり、やる気がとても出
 てきました。6月と7月には矢上
 高校で数学の非常勤講師を頼ま
 れて、数学の授業をしました。久
 しぶりの授業でしたが、生徒たち
 は素直で人懐こく、楽しくて充実
 した毎日でした。昔の生徒たちと
 違つても雰囲気や人柄の良さは
 以前の生徒と全く変わらず、これ
 が矢上高校生の良さなんだなど
 感じました。元氣がよく挨拶ので
 きる矢上高校の生徒です。

「後生の子供たちのために矢上
 高校設立の大事業はどうしても
 成さねばなりません。そのため私
 たち矢上村民は明日より誰も一
 時間長く働きましょう」と言つて
 村民総出での整地作業が始ま
 り、昭和23年矢上高校が設立さ
 れました。初代校長の岡磯吉先

生が、毎日生徒たちに言われた言
 葉「腕に覚えのある人間 筋金の
 通つた人間 思いやりのある人間」
 を矢上高校の教訓として、人々の
 思いが今も繋がれています。私は、
 矢上高校があつたので勉強をする
 ことができて、大学にも進学し教
 員として働くことができた、矢
 上高校に大変感謝しています。こ
 れからは、矢上高校の校訓が自分
 の人生訓として次の人生をスター
 トしたいと考えています。それで
 は、みなさま「ごきげんよう」。

卒業生会の使命

卒業生会前会長

渡辺生紀（4期）

今春六十六期生が卒業し入
 会、卒業生総数九千二百二十八名
 となりました。創立から六十六年
 の間本会では、母校の発展のため
 ささまざまな事業や活動を行いま
 した。

主な事業は、創立三十周年事
 業として、卒業生会館の建設に
 取り組む、当時会員数も少なく、
 募金額が大きいため、三年の歳月
 をかけて目標額を達成。苦勞の多
 い事業でしたが今も在校生の生き
 た教育の場として部活動の合宿
 等に活用されています。

創立五十周年事業では、校訓碑を校舎前庭に建立。校訓は初代岡磯吉校長が制定されたものである「腕に覚えのある人間」「筋金の通った人間」「思いやりのある人間」「わかりやすく格調高い校訓」とPTAをはじめ沢山の山の人々から感銘を受けたとの声が寄せられている。碑の裏面には開校時の校舎の写真と建設由来が刻まれている。それには建設に関わった矢上町民の奉仕出夫「延七千六百六十四人」「素材寄付の数量三千五百四十三石」が刻まれている。この開校時の木造校舎は、昭和五十四年に解体された。

そのた活動では、昭和五十七年より農業科募集停止と県が決定。その情報が入ってから当時の卒業生会長の上田清治氏を中心に協議を重ね関係諸団体に働きかけ「地域住民挙げて農業科存続を切望する」との陳情書を作成し、町長、PTA会長、卒業生会長等々で県当局に陳情した。そのお陰で存続が決定し現在の産業技術科として推移している。

平成十九年には、次年度より矢上高校は一学級減を示唆された。それを受け「一学年三学級」維持を求める署名活動を展開する。

わずか一週間で署名数一万三千余名の方に記帳頂く。陳情書と署名簿をもって町長ほか数十名で県教育委員会へ陳情した。後日、県教委からの募集要項発表で「三学級体制」を堅持すると決定された。

先人のご努力で創立された母校を守り存続させることは、卒業生会並びに地域住民の使命であると認識しております。

今後ますます少子化が進み、厳しい社会環境になりつつあります。末永い母校の存続発展を地域住民一丸となつて守り抜きたいと心より願っております。

ふるさとよ有難う

福岡幸雄（13期）

昭和36年卒業と同時に私は矢上を離れ、上京しました。その後、横浜での生活が53年、当然シテイボーイとなっているはずですが、カントリーボーイから全く変身できていないのです。

子供の頃の池や川での釣り、木の上に作った秘密基地、雪の上に残ったウサギの足跡を追ったこと、等々の思い出が強く、いまだに心がふるさとを向いたままです、新聞、テレビ、ネットなどで、

母校や町の様子を探している自分があります。

振り返ってみますと、何度か転機に差し掛かった時、決まって数日田舎で心と頭の整理をすることにしていました。

山々に囲まれた自然の中に身をみると、雑念もなくなり、ありのままの自分を取り戻すことができたのです。すると、不思議なことに、今まで曇っていた空が急に晴れ渡ったかの様に、心が晴々し、「よし、また頑張るぞ」という気が体中に満ちてくる事を。実感したものです。

余談ですが、皆さんは日本海側で鮭が遡上する南限の川はどこか、ご存知でしょうか。最近何気なくネットを見ていると、江の川の支流「濁川」となっており、動画もありました。矢上、中野を流れ井原川と合流した数キロ先には、名所「断魚溪」がある、あの川です。

何年か前、久しぶりにその断魚に行つた際、お稲荷さんの下で広い淵を見ていたら、いきなり大きな魚がジャンプしたのです。ひよつとすると、あれは私と同じ里帰りをした鮭だったのではないか、そんな気が...

古希も過ぎ、ささやかな心残り

りは、冠山に登ったことがない、もう一つは原山の中腹にある伝説の「やまんばの洞窟」を見ていないことです。

私にとつて、ふるさは心のオアシスであり、最強のパワースポットなのです。

皆さんは、いかがでしょうか。

青春

日野原育生（8期）

「広島じゃあ冬でもジャガイモの皮を勝手口に放つておけば芽がでまさあ」。60年前、生物の授業の初めに山田先生（元東京支部長の山田勝郎氏の父君）の「生物は環境に順応する」の序論だった。広い世界へと飛び出せという。世界史の柳原博先生は「真実をつかむためには本物に触れよ。若い君たちは政治も経済もその動きが身近にわかる環境に身をおいてみよ。文学・絵画・音楽なども、普遍的に価値あるものに学べ」と熱く語られた。

今では歌われなくなった卒業歌「揚げば尊とし」の2番、在校生歌の一節「身を立て、名をあげやよ励めよ」に送られて故郷を出た。

青雲の志を抱いて出たのは良

家」(青木光一)・「誰か故郷を
想わざる」(霧島昇)。

それでもガンバローと「いつでも

夢を」(橋幸夫・吉永小百合)、
中央や慶應・日大などへ盗聴に

出かけ、池袋西口の兵隊酒場で

カストリを呑み、飯田橋の鮎忠

で焼き鳥・佳作座で三本立て百

円の映画・御徒町の銀馬車でア

口ハを聴き、新宿の「灯」で放歌

高吟・有楽町日劇で「脱線トリ

オ」(由利徹・南利明・八波むと

志)。「三人娘」(美空ひばり・江

利チエミ・雪村いずみ)。はたまた

末広亭・鈴木演芸場と、どうで

も良いような生活ぶり。それで

も何とかガンバッテ安保改定闘

争に顔を出し、「アンポーハンタ

イ」を叫んだ。(この時、衆院南

門で東大生樺美智子が圧死)

ミロのヴィーナス・モナリザ・森

光子のデングリ返り(「放浪記」

も見た。カラヤン・バーンスタ

イン・小沢征爾も聴いた。

残念ながら、「身も立たず、名

もあげられない」小市民に終わっ

た。けれどもそれなりに夢を追

続けたのは、広い世界に出

られたおかげだと感謝している。

そして、これからもサムエルマ

ンの「青春とは」にあやかりたいと

思う七十六歳である。

神田支部長が前号で書かれた
「東京に出来ない後輩たち」に少し
ガツカリしているのである。

介護日記

日野原育生(8期)

定年後十年間、妻の両親(田所鱒淵)

を介護し、葬式を出してきた。父百才・

四年後母九十七才。その間のできこ

と。

(一) ボケ老人

寝る前、消毒のため台所で入

れ歯をコップに入れた。翌朝、爺

が口をフガヒガさせている。見る

と婆の入れ歯だった。(俺が入れ

替えといた)

婆が目薬を入れてくれと言う。

緊張して目をつむり、歯グキだけ

の口が大きく開いている。一滴入

れた。「口がスーッとする」

俺たちがいる離れのブザーが

夜中に鳴った。言ってみると「呼

んでみただけだよ」。この野郎ま

たかと思ひ、次は行かなかった。

朝、ベッドから落ちて、座ったま

ま毛布をかぶり、ふるえていた。

(狼爺)

臭い！コゲ臭い。綿だ！台所の

ストーブの火が、超小型で腰の

曲がった婆のハンテンのうしろの裾

でくすぶっていた。(カチカチ山)

死んでもいないのに、隣に香典
を持つて行った。

近所の孫が嫁をもらうと聞い

て、「うちでも百円ももらった。義

理がある」と言つて祝儀を百円

持つて行った。

嫁が捨てたタクアンをソウケに

拾つて「食べちゃんさい」と隣へ持っ

て行った。

味噌汁に味噌を二回入れた。

近所の元小学校の校長先生が、

死んだ奥さんの赤いスカートをは

いて、町田商店にあらわれた。

葬式の浄めの塩を孫の遠足弁

当の卵に持たせた。

川本の町で車が立往生した。

近くの車屋に助けを求めた。若

い衆がいなかった。爺さんが現場

に来てフロントを開ける。「エンジ

ンが無い！」(リヤエンジン車)

餅がのどにつまった。掃除機で

吸った。スポツと出た。(これはう

まくいった)

(二)動物のまき

柳谷のおこうさんが、サルに枝豆を

食われないように、畑で一斗缶を叩

いていた。昼食に帰っていると、畑でカンガ

ン音がする。見るとサルが一斗缶を叩

いていた。(サルまね)

(三)追悼 竹内 晃(沖田屋)先輩(六

期)広島から田植えに帰った。三か月程

して穂が出はじめた。広い田んぼに、白

い穂の列と赤い穂の列が交互のに入り
混じったマンダラ模様が現れた。「先輩
芸術的な田んぼですね」と言つた。コ
ラッ！ヒノハラ！ヒトラバカニヌナ(自
分に腹が立つてたみたい)

しまねU・ーターン

フェアーン東京

在校生が上京し矢上高校の良さをピ
アールします。

26年 12月 7日(日)

渋谷ヒカリエ

(渋谷区渋谷2-21-1

矢上上高校の

学校説明コーナープレゼント
ションは13時30分)

チャレンジショップ

毎年恒例のチャレンジショップ。島根

県内の4高校の生徒が協力して日本橋

しまね館に本店し、矢上高校からも出

店され在校生が上京します。売り切れ

前に行っちゃんさい。

27年 1月 14日(水)

日本橋しまね館

東京都中央区日本橋室町

1丁目5番3号福島ビル1階

矢高会ゴルフ大会案内

恒例となりました東京矢高会ゴルフコンペ。スコアを気にしない和やかな楽しいゴルフです。今回も2組以上の開催にしたいと思います。ぜひぜひご参加下さい。(えつと来ちゃんさん)。

日時 12月10日(水)

集合 午前9時30分

スタート 9時52分 中コース

場所 川越グリーンクラブ

埼玉県川越市古谷本郷八六五一

電話 〇四九一―三六―二二二

美女木IC(高崎埼玉大宮線与野IC) クラブバス J R埼京線南古谷駅右手側

埼玉県信用金庫から運行

お迎え 7時05分 7時50分

8時30分 9時05分

プレイ代金 一一、八四〇円

(食事代込み・各自精算)

懇親会費 3,000円

平成二十六年年度のお礼

今年度年会費のお願い

本支部の経費は、皆様方からの会費・寄付金で運営されております。本年度会費をお納め頂きました皆様、ありがとうございます。大勢の方にこ

協力頂きました。一口千円として何口でもお納め頂くことができるようになっております。まだの方は、払込用紙にてお納め頂ければ幸いです。ゆうちょ銀行からの振込の場合は手数料がかかります。本年度の会費をお納め下さいませ。よろしくお願いいたします。

会費 一口千円 何口でも

口座 〇〇一四〇一〇一七二二七七

金融機関からの振込用 口座番号

ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキユウ)

店 当座 〇〇七二二七七

口座名 矢上高校卒業生会 東京支部

平成二十六年年度会費納入芳名

- 十口一万円 渡辺生紀(4期)
- 五口五千元 神田恵介(13期) 中村輝夫(4期) 大羽登(6期) 三宅弘文(12期) 四口四千元 山本立身(15期) 三口二千元 服部豊(15期) 石川義之(5期) 服部俊之(15期) 酒井富雄(22期) 伊崎悦子(14期) 野田明弘(瑞穂14期) 加藤精子(12期) 中岡庸修(15期) 三宅光寛(21期) 椿満男(8期) 二口二千元 浜田逸子(14期) 荒瀬淳(6期) 高橋廣(13期) 森脇俊則(18期) 本田博(10期) 宮田勝(14期) 三宅雅寛(23期) 花本保博(10期) 中村延枝(6期) 佐々木チズ子(6期) 下瀬忠枝(5期) 後藤勝子(6期) 高山恒子(15期) 渡邊正己(14期) 日高勇(19期) 服部眞二(17期) 山本明子(17期) 中森勝三(瑞穂

13期) 三宅良二(35期)

一口千円 一谷邦男(9期) 日野勇夫(瑞穂7期) 枝久保美千恵(10期) 森岡武(14期) 小林千賀(13期) 前田喜信(8期) 伊東順子(23期) 日高文三(瑞穂1期) 竹内常年(瑞穂18期) 雨宮寿子(13期) 洲浜豊和(12期) 斎藤均(19期) 岡本博仁(15期) 狩野恵(13期) 伊賀美穂(21期) 野坂正(5期) 日高正行(10期) 神田信子(23期) 椿美津枝(13期) 伊丹里美(11期) 門屋邦子(12期) 山本信子(13期) 岩岡忠夫(15期) 森脇清(17期) 植田豊(13期) 倉持桂子(14期) 日野修治(17期) 原野未来将(53期) 宮田勉(19期) 今田幸江(19期) 小尾保子(6期) 江藤洋子(13期) 柳瀬百合子(8期) 宇津本由紀子(8期) 稲田隼(8期) 日野紀世子(瑞穂13期) 日野原育生(8期) 岡部健(28期) 島村不二子(19期) 坂根節男(13期) 寺本廣旦(19期) 吉里輝子(13期) 上田昭臣(17期) 山田裕三(39期) 藤橋百合恵(21期) 山崎照夫(14期) 福岡幸雄(13期) 三宅伸二(29期)

矢上の方言

はあ 忘れんさつたろう。矢上弁、たまにやあ思出しちゃんさいよ。

前号の問題「ぞえん」難しかったかな。最近では交通事情が良おなつて、珍しゅうのおなつたが、ちよつと前まで、塩サバやら、塩鱈。

正解は「生のさかな」でした。思出し

んさつたかな。感で書きやあ「無塩」。そのまんま。都会の生活が長いけえ、忘れんさつたんだらう。生魚が珍しゅうのおなつたけえ、はあ言うことたなからう。

正解者の中から抽選で5名の方に記念品をあげようと思っております。抽選は総会の時にやるけえ、正解しんさつた方はなるべく出席しちゃんさい。楽しみにしとつちちゃんさい。

さあ、今回の矢上弁の問題は「か」。わかつたかいのお。これから寒うなるけえ、たまにやええで。

思出しちゃんさいよ。よお思出しんさんらなかつたら、矢上の親戚や同級生に電話して聞きんさつたもええで。

編集後記

一年が経つのがなんと早いこと。アツという間の1年でしたが、さあよいよ大詰め。神田支部長の発案で発行することになった矢高ニュースも早いもので10号となりました。神田支部長、井原の古民家生活が気に入つて、軸足が移つとられるようで心配ですが……。まだまだお元気で若い様子。今号は久しぶりに6ページになりました。原稿お寄せ頂きました先輩の皆様有難うございました。この場をお借りして御礼申し上げます。朝夕はすっかり寒くなつてきました。どうぞご自愛下さい。

三宅 良二(35期) 矢上出身